



春休みは、春の読書週間に

としょえもん

—学校図書館サポートだより 第4号（通巻16号）—

学校図書館サポート事業の推進を期して

八王子市教育委員会 学校教育部 指導課長 細井 東 のぼる

昨年8月指導課に異動してきて、「学校図書館サポート事業」が各方面からの注目を集めている事業であることが分かりました。本事業の進捗状況や成果などを確かめるため、学校図書館活用重点校の状況の把握や、サポーターを派遣している学校の図書館を訪問しています。蔵書管理のバーコード化、背ラベルの色で揃えた配架、おすすめ本の展示コーナーや様々なポップで飾られた本。私が小・中学生だった頃と比べると学校図書館の環境整備はたいへん進んでいます。また、図書ボランティアの方々と協力した活動や、児童・生徒の委員会活動においても、工夫した取組がいろいろと行われていることが確認できました。学校図書館の活性化のために、多くの方々が力を尽くされていることから、読書の大切さを改めて認識しました。

私は通勤の電車の中でよく本を読んでいます。ただ、私の読書の傾向を振り返ってみると、同じ作者やジャンルに偏ってしまいがちでした。工夫された展示やポップを見て、今まで手にとったことのない本も読んでみようという意識が湧いてきました。学校図書館サポート事業の成果はこんなところにもあるのだと実感しました。

このサポート事業においては、本年度は「夏休みおすすめの本」リストを作成したり、図書ボランティアの方々へのポップ作りや本の修理の研修を実施したりと、学校図書館を利用する児童・生徒の読書意欲を高める取組を充実させてきています。特に「夏休みおすすめの本」リストを作成する際には、どのような紹介文を載せると児童・生徒の心を揺さぶることができるかを学校図書館サポートーターが知恵を出し合いました。児童・生徒の中には、私と同じようにこれまでと異なるジャンルの本を手にした方もいるのではないのでしょうか。

各学校でも児童・生徒の読書が充実するような働きかけを行なっています。児童・生徒の健やかな成長を支えていく意味でも、本事業を推進していくことへの責任を強く感じています。



千支にちなんだ本にPOPカードを添えて



平成25年度の学校図書館サポート事業トピックス

■学校図書館活用重点校20校を支援

5ヵ年計画の4年目にあたり小学校13校、中学校7校を巡回訪問実施。最終年度の来年度は、小中合わせて18校の巡回訪問で市内108校すべての小中学校の巡回支援が完了する予定。

■広報紙を定期発行

『としょえもん』を今年度も4回発行し、通巻16号を数えた。

■各種研修会を充実

司書教諭、学校図書館読書指導員・図書ボランティア向けの研修会を計7回企画・実施した。

■学校図書館サポーター（読書推進担当）を32校に派遣

8名のサポーターを小学校23校、中学校9校に派遣、学校図書館を活用した授業の支援および各校図書ボランティアと協働しての環境整備に成果を挙げた。

■初めてブックリストを作成

夏休みに向け、小学生・中学生対象のブックリスト「読書の旅に出かけよう」を作成・配布した。

平成25年度 研修会報告

第三回 学校図書館読書指導員研修会 事例発表会

平成26年1月22日(水) 10時～12時 教育センターにて

活動事例発表会も4年目(4回目)、今年度も下記の4校の読書指導員や図書ボランティアの皆さんが実践した学校図書館支援・読書活動支援について発表してくださいました。内容の一部を紹介します。

【元八王子小学校】

PTAサークルとして13年余の実績をもつ「ブッキー」さん、約40名。週1回の読み聞かせを中心に学校図書館整備や装飾などの支援を行う。ブッキー通信を発行し、入学から卒業までの読み聞かせ記録は、貴重な財産となっている。また、講師を招聘しての読み聞かせ講習会も実施している。今年度は、本の並べ替え、廃棄作業などを行った結果、以前からの課題も改善でき、使い易い学校図書館になったと評判もよく、成果を実感している。



【川口小学校】

「読み聞かせ隊」と名前が付いた自分たちの活動は10年前からで、現在20人前後が活動している。学級の枠を越えて実施している。読む本は自分で選んでいたが、今年はサポーターからアドバイスがもらえ、自信をもって読めるようになった。図書整備の手伝いも行っている。発表の中でお父さんボランティアによる落語「子ほめ」の読み聞かせ実演が行われた。落語は高学年の子どもたちに好評であったことが、子どもたちからの手紙でもよく分った。



【宮上小学校】

保護者の会(宮上会)で活動。学校図書館活用重点校を機に活動を学期1回から月2回に増やす。学校の要請を受けて、二箇所に分れていた学校図書館を一つにし、本の並べ替え、絵本の目印シール貼付、図書展示ケースの装飾、修理講習などを行った。ボランティア活動がうまくいくのか、活動が負担にならないかなどの心配もあったが、やってみると煩雑で本を探しにくかった学校図書館が本を手に取りたくなる学校図書館になり、充実感が得られた。



【高尾山学園】

学校紹介に続き、平成23年度から保護者の会の呼びかけで、週2日間の開館の手伝いから始めた経緯を説明。高尾山学園は小中学生が一緒に使う学校図書館なので、絵本から中学生向けの本まで幅広く所蔵している。小学生でも使い易いように目印のシールを付けたり、本の並べ替え(図書委員や先生と共に)、おすすめ本コーナーや見出し札作りなどに取り組む。畳スペースも整備でき、使い易い学校図書館、行きたくなる学校図書館作りに今後も取り組んでいく。



熱心にスライドを見入る参加者

当日は58名が参加。質疑応答も活発で、情報交換・交流の面からも有意義な研修会となりました。事後アンケートでは「学校によって内容・方法がそれぞれあり、参考になる。今後の活動に活かしたい」「パワーポイントでの発表は分かりやすく、飾り付けやカードのデザインなど参考になった」「発表校の取組を自校でも活かし、子どもたちが楽しく利用できるよう手伝いができたらよいと思う」などの感想が寄せられました。



ステップアップ研修会 パネルシアターに挑戦!

平成26年2月19日(水) 10時～12時 会場 教育センター

教育センター学校図書館担当では、読書指導員研修会に6回以上参加された皆さんを対象にステップアップ研修会を開催しています。今回の内容は、パネルシアターの製作と実演体験です。講師は、学校図書館担当が務めました。

はじめにDVDの上映と、学校図書館サポーターによる「にんじんさん・だいこんさん・ごぼうさん」の実演でパネルシアターのイメージをつかんでいただいたところで、3グループに分かれ、絵人形作りに。「ねこごかな」「大きなだいこん」「三びきのやぎとトロールのおはなし」のキットを、切ったり貼り付けたり縫ったりして下準備を行い、その後台本をもとにストーリーを確認しながら絵人形の動きを練習しました。最後にグループ発表をして成果を鑑賞し合いました。情報交換や、交流も図ることができて、参加された皆さんからは、「とにかく楽しかった」「実際に作るの(実技)はよい経験になった」「マイパネルを作り、挑戦してみたい」などの感想をいただきました。

学校図書館活用重点校紹介 ～ その4



平成 25 年度学校図書館活用重点校の図書館を順番に紹介しています。

小宮小学校			<p>左: 図書委員が作った「本の帯」。思わず手にとってみたくなるほど、カラフルな帯はアイデアいっぱいの作品です。</p> <p>右: 入り口のドアと廊下の壁面をボランティアさんが装飾。明るい雰囲気になりました。</p>
散田小学校			<p>左: 夏休みに先生方とボランティアさんとの協働作業を行いました。書架の本をすべて出し、配置替えをしている様子です。</p> <p>右: ボランティア研修会で習った POP カードを添えて、冬のおすすめ本コーナー。</p>
鹿島小学校			<p>左: 図書委員会が作った大型ポスター。図書館の廊下に、おすすめの本を紹介しています。</p> <p>右: ボランティアさんの協力で図書館の整備も進んできました。中休みには、先生を囲んで子どもたちが集まります。</p>
宮上小学校			<p>左: 廊下のガラスケースに、季節の本を展示。今年度はボランティアの活動回数も増えて、季節ごとに本を紹介しています。</p> <p>右: 絵本棚がぐるりと囲む畳スペース。新しい畳の上で、自由に読書を楽しむ子どもたち。</p>
第二中学校			<p>左: 図書委員が初めての POP カード作りに挑戦しました。本を展示しているブックスタンドも作りました。</p> <p>右: 生徒からのリクエストと、先生が選んだ新着本展示。幅広いジャンルの本が並びます。</p>

みなみ野君田小学校図書館には、『教科書にのっている本を読んでみよう』という特設コーナーがあります。1年生から6年生までの国語の教科書に紹介されている本を、司書教諭が中心となり、図書ボランティアさんや学校図書館サポーターと協力して揃えてきました。貸出カードには、学年ごとのブックリストも掲載されています。学校図書館サポーターは、必要な本を集めて展示をするだけではなく、図書館を利用する児童に向けて、一人一人声をかけながら本を紹介しています。タイトルだけでは手にとりにくいおすすめの本や名作も、こうして児童に広がっていきます。本の世界を広げる、本を読む楽しさを伝える、本を手渡すことも学校図書館サポーターの大事な役目です。



本が好き！

このコーナーでは毎回本の紹介をしています。今回は研修会の内容にそった参考図書と学校図書館サポーター（読書推進担当）からのおすすめ本です。ぜひ読んでみてくださいね。

本の表紙画像は出版社の許諾済です



『ねごごかな』わたなべゆういち作・絵 フレーベル館

ステップアップ研修でパネルシアターに挑戦しました。魚が大好きなねこ、しめしめ大きな魚を釣り上げて…と思ったら、自分が食べられてしまいました。「さかな」になったねこはそれからどうしたでしょうね。シリーズの絵本は15作品、季節に合わせて子どもたちと楽しんでください。



学校図書館の窓から～

川端誠さんの落語絵本シリーズ、15作目。「みょうがを食べると物忘れをする」という言い伝えを悪用して、泊り客の財布を巻き上げようとした宿屋夫婦のお話です。



みょうが茶、みょうが煎餅、みょうが最中、みょうが羊羹、みょうが饅頭…。みょうが尽くしの宿屋に泊った、人のよさそうなお客さんはいったいどうなったのでしょうか？

分かりやすいオチと、シリーズおなじみのユーモアあふれる絵で子どもも大人も楽しめます。絵や文のところどころにクスッと笑わせるしかけがあるので、読み聞かせの最中も盛り上がりますよ。

『落語絵本15 みょうがやど』作・川端誠 クレヨンハウス

(I：横山第一小・緑が丘小・みなみ野君田小・

みなみ野中担当)

『ちいさな魔女からの手紙』角野栄子 作 ポプラ社

魔女の宅急便でおなじみの角野さんが、20人の人気画家が描いた個性あふれる魔女の絵に、手紙形式で物語を紡いだユニークな本。

裏表紙には、素敵なプレゼントの入った封筒がつき、低学年から大人まで一緒に楽しめます。



図書館へGO！《蔵書の廃棄と更新》

■子どもたちの目から見た書架の印象が大事

特定の本を探す場合はともかく、多くの子どもたちは「何か面白い本はないかなあ」と書架の前を行ったり来たりします。このとき、背表紙の文字が消えかかっていたり小口が日に焼けて埃がたまっていたりする本は、まず間違いなくパスされるでしょう。こういう本に囲まれた新しい本も、ついで見逃されることもあるかもしれません。古い本でも子どもたちに手にとってほしい本は、光の当て方を工夫することが必要です。

■10年以上も前の情報記載の本では…

しかし、これが調べ学習用の本となると話は別です。「ソ連」が現役として出ている地理の本や地図、「電子計算機」なる言葉が頻出する産業関係の本などは書架から引退してもらうことも必要です。このように情報が陳腐化しやすい分野は、「日本十進分類法（NDC）」による2類の地理、3類の社会科学全般、5類の工学・工業関係、6類の産業全般などが顕著です。とはいっても図書購入予算には限りがありますから、蔵書を更新する（新しいものに買い換える）には年次計画を立てて中・長期的に考えていくことが大切です。

■蔵書構成と廃棄基準

図書館全体がどのような蔵書構成（メディア構成）となっているかを把握することも大切です。「学校図書館図書標準」で総冊数をクリアしているからといっても、「配分比率」が偏っていて、しかも動かない本が多数を占めるようでは、魅力ある学校図書館とはいえません。廃棄に当たっては、全国学校図書館協議会が「学校図書館図書廃棄規準」を示していますので参考にしてみてください、学校図書館にはそれぞれ個性がありますから、学校の実情に合った基準を作っておくこともよいでしょう。



平成25年度第4号

3月3日発行

(通巻16号)

八王子市教育委員会 学校教育部指導課

学校図書館担当（教育センター内）

連絡先 電話 042-664-1135 / FAX 042-662-2988

住所 八王子市散田町 2-37-1

e-mail b301400@city.hachioji.tokyo.jp